

2 JSL 社会科のツールとそれを利用した授業作り

社会科部会では、以上のような考え方を授業作りに活かすためのツールとして、「学習単元一覧」と「学習活動例」を準備した。これらのツールを利用して、それぞれの現場で、対象生徒の実態、授業実施の条件、担当者の専門性などに応じて、JSL 社会科の授業作りに取り組んでいただきたい。

2-1 JSL 社会科のツール

(1) 学習単元一覧

「学習単元一覧」は地理、歴史、公民の各領域の学習内容を、単元化して示したものである。「学習単元」の他、各単元の「具体的な学習内容」、「よく取り上げられる事柄例」、「学習活動例」「学習スキル」を一覧の中に示した。

授業作りをする最初の段階で、学習内容の全体像や、各単元で学ぶ具体的な内容が何であるのかをつかんでほしい。また、この一覧を参照して、各単元で、知識理解や概念形成のためにどのような学習活動が考えられるのかをイメージできる。

なお、学習単元と学習指導要領の関係が分かるように、一覧の左には学習指導要領の内容の（ ）レベルとカタカナ記号レベルの項目を明示した。

(2) JSL 社会科の活動例

JSL 社会科の考え方で設計した授業を紹介する。これらの活動例を通して、JSL 社会科で、どのように学習活動を展開し、そこでどのような支援を行うかを例示する。活動例は、地理5事例、歴史5事例、公民6事例の計16例からなる（活動例一覧参照）。

<活動例一覧>

分野		活動例のタイトル
地理	A	世界の国々の位置・名称
	B	日本の位置
	C	東京都の特色
	D	日本の自然の特色
	E	アメリカ合衆国の特色
歴史	A	日本の歴史の流れと特色
	B	天下統一の歩み
	C	幕藩体制の成立
	D	わが国の開国とその背景
	E	明治政府の成立と維新
公民	A	高度経済成長期以降の社会
	B	租税の意義と役割
	C	国民の政治参加（地方自治）

D	国の政治のしくみ
E	地球環境問題
F	時事問題から考える現代の社会

(3) 社会科用語対訳表

社会科特有の用語の対訳表（ポルトガル語、中国語、スペイン語、フィリピン語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、英語の7言語）を準備した。

取り上げた用語は、それぞれの領域で特に重要な用語である。人名や地名、法制度名など日本固有の名称については、簡単な説明例の文章を付している。

利用方法としては、活動を通して獲得した知識・概念（用語）を母語で確認するときや、イメージはあるのにことば（用語）が想起できないときに示すなどの方法がある。活動や作業を通して知識・概念を形成してから用語を提示し、母語でも確認するという順番が有効であろう。母語で既に知識をもっている生徒の場合は、対訳表で用語の意味を確認してから、その用語を使いながら探求型の学習活動を展開するという方法でもいいであろう。教室での学習の後、自宅で復習する時に、補助的に利用させても効果的である。

注意しなければならないのは、母語での知識・概念をもたない生徒の場合である。そうしたケースでは、対訳表を見せても、なんら知識獲得や概念形成には結びつきかない。対訳表を渡して安心ということにはならない。生徒の母語の力と学習内容に関する知識・概念の有無を把握し、有効な利用方法を検討してほしい。

(4) 活動例の活用方法と構成

①活動例の活用方法について

活動例を作成するに当たっては、対象となる生徒の日本語の力と社会科の学習経験やスキルを大まかに想定した。それは、活動をどう構成するか、日本語の不十分さをどのように支援するかについて、活動例の中で具体的に示したいと考えたためである。

例えば、地理の活動例A「世界の国々の位置・名称」は、文字の読み書きがまだ円滑に行えない生徒を対象として作成されている。そのため、カタカナの国名を判別したり、読んだり、書いたりすることが、活動の中に意識的に組み込まれている。

また、公民の活動例C「国民の政治参加（地方自治）」は、ある中学校で実際に実施した授業を、JSL 生徒を対象に再構成したものである。その中学校のある地域で、実際にあったエピソードが、題材として取り上げられている。JSL 生徒の実体験や身近な出来事を扱うことが社会科の学習参加を助けるという考えを、具現化した例である。題材の求め方の例として、参考になると思われる。

一方、公民の活動例B「租税の意義と役割」では、日本語で一定程度自分の考えや意見を表現できる生徒を想定して、ディベートへの参加のスキルを高め、税についての基礎的知識を身に付けさせることを目標として、活動が組み立てられている。社会的な問題についての討論やディベート、あるいは公的な場での報告やプレゼンテーションへと、

生徒が日本語の口頭表現の力を段階的に発展させられるように組み立てられた活動例である。

以上のように、活動例には、それぞれ特色がある。対象の生徒の実態（イメージ）に応じて、目標が設定され、その目標を達成するための多様な活動のさせ方や、そこでの支援の方法が例示してある。教室で目の前の生徒のための授業作りをするとき、授業作りのアイデアとして参考にしていきたい。

②各活動例の構成

活動例は、次の5つの要素から構成されている。

○学習単元と具体的な学習内容

活動例の該当する「学習単元」とその「具体的な学習内容」である。

○目標

活動例の目標を、次の3つの点から示した。

・社会科としての目標

・身に付けさせたいスキル

社会科の学習スキルの中で、この活動を通して身に付けさせたいスキルを具体的に示した。

・身に付けさせたい日本語のスキル

この活動への参加を通して、高めたい日本語のスキルを示した。

○対象とする生徒のイメージ

この活動を計画するに当たって想定した生徒について、その社会科学習や社会的な経験、また日本語の力を具体的に示した。どのような視点で生徒の実態をとらえるか参考にしていきたい。

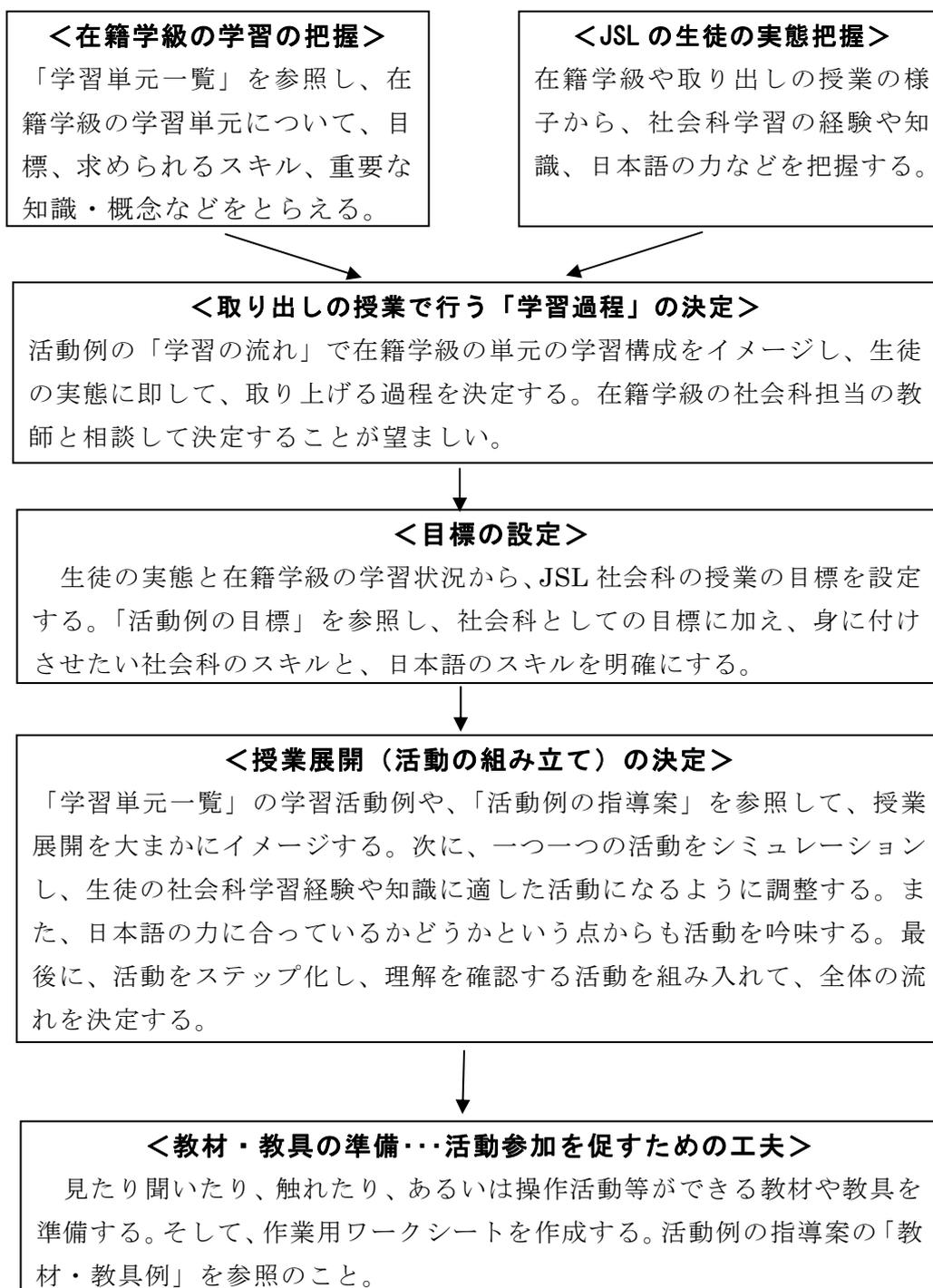
ただし、ここで示したタイプの生徒にしかこの活動例を活用できないのかというと、そうではない。異なる経験や日本語の力をもつ生徒に対しては、その点を考慮して、活動例で示されている活動の展開を変えたり、活動そのものを一部入れ替えたり、一部の活動を割愛したりするなど、再編して活用できるものである。あるいは、資料に加工を加えたり／他の資料を利用したりすることによって、対応できる生徒のタイプは広がる。

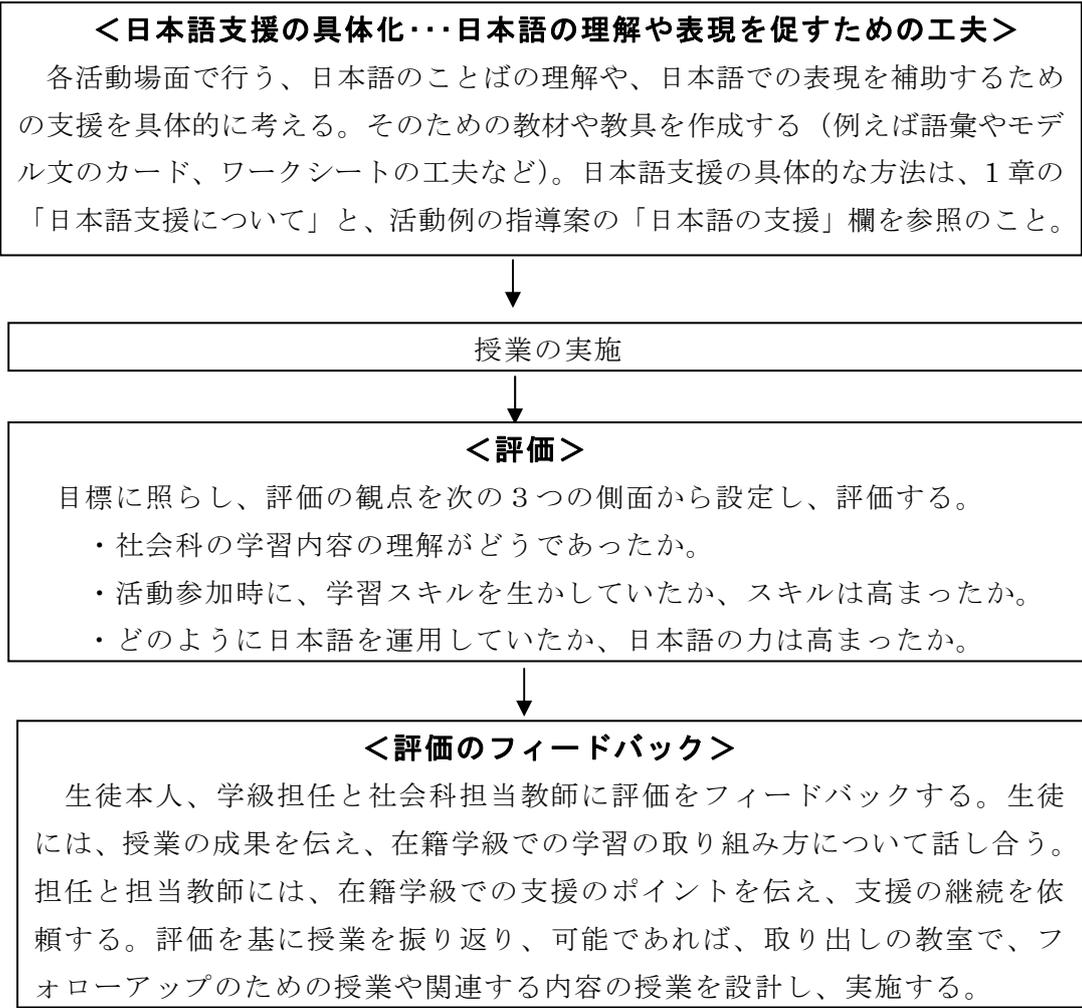
○学習の流れと参加支援の例

今回、JSL 社会科では、在籍学級から一時間程度取り出しの教室で学習するケースを想定して、活動例を提案している。「学習の流れ」では、在籍学級で一般的に行われている学習展開を示した。「つかむ→まとめる→広げる→発信する」という4つのステップ（学習過程）である。各ステップに、JSL の生徒の内容理解や活動参加を促すための支援例を示した。

2-2 ツールを利用した授業作り

JSL 社会科の授業作りの方法については、これまでも、いろいろな項で触れてきたが、ここで、整理して示す。次のようなプロセスで授業を設計、実施、評価、再設計する。





2-3 活動例の見方

歴史分野 A「日本の歴史の流れと特色」を例に、活動例の見方を示す。

・・

JSL 社会科 活動例 歴史 A「日本の歴史の流れと特色」

(1) 学習単元と具体的な学習内容

この活動例が取り上げる「学習単元」とその「具体的な学習内容」を示した。「学習単元」には学習指導要領の該当する内容の番号を付してある。

① 学習単元と具体的な学習内容

学習単元：内容（1）ア
 ○時代の移りかわり
 具体的な学習内容
 ○年代 ○日本の時代区分

教材観を簡単に述べた。JSL 生徒にとって、この学習がどのような意味をもつのかという視点からもとらえた。

中学校における歴史学習の導入の単元であり、一般に歴史学習の入り口として位置づけられる。また、歴史学習の方法を意識的に学ぶ単元でもある。日本の歴史の全体像をとらえ、歴史の学習に取り組むための準備の学習として重要な内容である。

(2) 目標

① 社会科としての目標

- ・ 図版や年表、西暦による年代の表し方や日本の歴史の時代区分を比較し、時代の変わりについて大まかにとらえさせる。

「社会科としての目標」「学習スキル」「日本語のスキル」という3つの点から目標を示した。

② 身に付けさせたいスキル

- ・ 西暦についての知識を利用し、
- ・ 歴史上の事柄に関して課題設定、課題探求をし、その結果をまとめる。

具体的な学習内容に関する概念形成に必要な学習スキルを、この単元の活動をイメージして具体的に表した。

③ 身に付けさせたい日本語のスキル：

- ・ 西暦の年号の言い方や時代の名前に表わすスキル。
- ・ 調べたことを「課題、調べる、調べ方、まとめ、感想」という構成でポスター、報告書にまとめるスキル。

この学習を通してどのような日本語の力を高めたいのかを示した。表し方は、「日本語で～するスキル」という形にした。

(3) 対象とする生徒のイメージ

経験知識	日本の歴史についての大まかな流れについて。
日本語の力	日常会話、文字表記、読み書きの各側面の力等から示した。

「対象生徒像」である。この条件に合う生徒でなければ活動例を活用できないという意味ではない。生徒が社会科学習の経験が豊富であれば、日本語の力はもっと低くても実施が可能になる。また、学習内容が資料などを多用した作業などが中心であれば、口頭でのコミュニケーションがなんとかできる力があれば、実施することが可能となる。

(4) 学習の流れと参加支援の例 (全体の時間数 4時間程度)

	在籍学級における学習活動例	学習への参加を促すための支援の例
つかむ	①年表と歴史上の出来事や人物、建造物などの資料(カード型)を並べながら、日本の歴史の流れをとらえ、関心を持つ。	○教科書や資料集の歴史資料をいくつか取り上げ、年表に照応させて並べさせ、時代の流れをとらえさせる。 ○生徒が特に関心を見せた時代については、教科書の該当頁の資料を利用して、その時代を代表する建造物や出来事を簡単に解説する。
まとめる	②調べたことをポスターや報告書にまとめる。	○調べ学習の成果物(ポスター、レポート等の作品)を示し、内容や構成を確認し、課題と作業をイメージさせる。 ○関心のある時代の資料を見てやりとりして疑問を引き出し、テーマを設定させる。 ○調べ方については、具体例を示し、そこから選択させる。

在籍学級の授業でよく行われるこの単元の学習展開(過程)を簡単に示した。

ひろげる	③ 図書室、インターネット等を利用して資料を収集し、テーマについて調べる。	○ 図書室の利用方法やパソコン、インターネットの利用方法について実際に資料収集活動を行いながら説明する。 ○ やりとりを 在籍学級で、左欄に示した活動を行う場合、JSL 生徒が授業に参加しやすくなる支援の例を示した。
発信する	④ 調べたことを、ポスターにまとめ、報告会を行う。調べた時代を年表上で確認する。	○ ポスター例 たいこと、調べた時代を年表上で確認する。 ○ ポスター作成のポイント（年表、地図、絵等を添える、内容毎に分けて示す。だ、である体で書く等）を、ポスター例についての話し合いを通して伝える。 ○ やり取りを通して適切な表現を伝える。

※ 網掛け：指導案で示す授業

(5) 指導案

在籍学級の学習過程の一部を切り出して、取り出しの学級で授業を行う場合の指導案である。

- ① 本時の目標：ポスター、報告会の内容を元で本文の調べたことまとめ方がイメージでき、自身の課題を決定できる。
- ② 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点、★教材	○日本語支援（タイプ）
導入	① 数種類の作品（調べ学習の成果）のテーマ 学習者の活動を簡潔に示す。 ② 作品の構成と内容について話し合い、課題と作業を理解する。	・ 作品（成果物）とテーマ（カード状にする）を提示し、組み合わせさせる。また、組み合わせの理由を問う。 ・ 作品の構成（テーマ、結果、感想、絵等）を理解させて、学習のイメージさせる。 ★ 作	○ 各テーマの時代を年表で確認する（産） 左の活動で、日本語の力の不十分さを補助するために、教師・支援者が行う工夫である。該当する「理解、表現、記憶、情意、自律」の5つの支援カテゴリーを【 】内に示してある。

左の欄の活動に生徒が参加し、ねらいを達成できるようにするために、教師や支援者が、意識的に行うことを示す。

<p>展開</p>	<p>③ 関心のある時代の資料（教科書の）を見て話し合い、テーマと調べることを決める。</p> <p>④ 調べる方法を決める。</p>	<p>・ 資料について具体的に問いかけ、本人の関心事を引き出す。それをテーマとして設定させる。</p> <p>・ 調べ方は具体的例から選択させる。</p> <p>★人物、写真、版等</p> <p>★調べ方を示すもの（PC、資料集等）</p> <p>★キーワードカード</p>	<p>○ 生徒に資料を選択させる。（自、情）</p> <p>○ 具体的に問いかけながら資料を読み取らせる。（理） → 問いかけ例</p> <p>○ 生徒の関心を拾い上げる</p> <p>○ 表で示しテーマを決定させる。（表、自）</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑤ テーマ、調べること、調べ方を、シートにまとめる。</p>	<p>・ 話し合っ決定したことを作業計画シートにまとめさせる。</p> <p>★ 作業計画のシート（読み仮名あり、できれば母語訳付き）</p>	<p>○ 導入、展開段階で出たキーワードを板書しておき利用させる。（表）</p> <p>○ シート記入時には、やりとりしながら表現方法を示す。（表）</p>

教師が内容を理解させたり、活動の指示を与える時の日本語のコントロールの仕方が、問いかけ・応答例として示してあることを意味する。

<キーワード>

歴史、時代、時代の○○時代、+資料に関する重要語彙（人物、建造物、事物、出来事名）
 ポスター、テーマ、調べ方、感想、年表、絵、

内容や学習活動のキーワードを示した。これらのことを丁寧に扱い、理解や運用を促す。

(6) 教材・教具、問いかけ・応答の例

① 問いかけ・応答の例

(4) の②の活動の問いかけ方の例 → 生徒の日本語の力や歴史学習の状況にあわせて表現を調整する。

- T 「この建物はいつの時代のものですか。どの時代？ どの時代の建物ですか。」
- S 「この時代」（年表を指さして）
- T 「そうですね。江戸時代ですね。」
- T 「この建物を見て、どう思いますか。この建物は、どうですか。」
- S 「大きくてきれい。多分、力が強くてお金がある人、王様か、将軍か。」
- T 「とても飾りがきれいで豪華ですね。これは、江戸時代の王様、将軍が立てたものです。」

教師の「問いかけ」と生徒の「応答」の例を示す。「(4) 指導案」の中に、網掛けで「問いかけ例」と示されている箇所の例である。日本語をどのようにコントロールして、生徒に理解を促したり、新しい日本語を話させたりするかを例示した。

○指導案

取り出しの教室で JSL 生徒を対象に、上記の「学習の流れ」で示した学習展開の一部を切り出して、授業を行う場合の指導案である。

取り上げる学習内容は、その学習をすることによって在籍学級での学習の手がかり、足がかりとなるもので、学習参加を助けると考えられるものである。対象となる生徒の、その単元の内容についての知識や必要とされるスキル、日本語の力によって、どの過程(「つかむ」「まとめる」「ひろげる」「発信する」)の活動を取り出しの教室で学習することが有効かは異なる。活動例で示した指導案でも、取り上げた過程はそれぞれ異なる。

○教材・教具、問い掛け・応答の例

先述したとおり、具体と抽象をつなぐための半具体物の利用を積極的に行うことが学習支援の重要なポイントとなる。そこで、各活動例には、教材・教具として、どのような資料や主題図が適当か、それらにどのように手を加えるか、授業でどのように利用するかを例示した。

教師や支援者には、JSL 生徒の日本語の力を考慮して、日本語をコントロールすることが必要となる。そこで、問いかけ・応答の例として、生徒が知っている語彙や表現への言い換え、情報の提供の仕方、具体物・半具体物を利用したやりとりの例を示した。

上の問いかけでは引き出せない場合、次のように言い換えてみてください。

○T「これは、平安時代？鎌倉時代？江戸時代？どの時代ですか？年表のどこ？」

S「ここ」（年表を指さして）

T「江戸、江戸時代ですね」

○T「この建物すごくきれいですね。誰が建てたと思いますか。どんな人？」

S：「わかんない。でも、お金もち、強い人」

T：「これは、江戸時代の将軍が建てたものですよ。将軍は王様みたいな人。力が強くて、お金もありました。」

②教材・教具

1) 作品例とそのテーマ

歴史学習の最初の段階で、レポート、ワークシートなどを作成する。ただし、漢字に読み仮名を振り、子どもたちが理解し易くなるよう、カードに書かれたテーマとマ

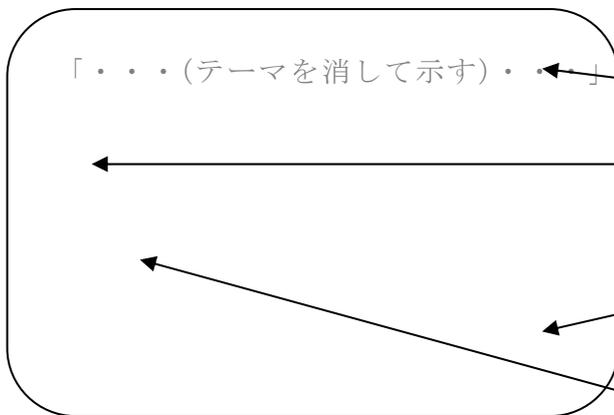
※活動例で利用する教材や教具のイメージと使い方を示す。

中学校で一般的に利用している教科書や資料集・地図帳を例として挙げ、どのような教材を準備すればよいかを説明してある。

また、日本語の力を配慮してどのような加工をすればよいか、ヒントを示すようにした。

(例) 次のようなものをいくつか準備します。

①作品



② 内容・構成カード

作品の該当箇所に貼る

テーマ

しらべた結果

かんそう
感想

え ねんびょう ちず
絵、年表、地図など

③テーマカード

じょうもんじん しよくじ
縄文人の食事

④時代名カード

縄文時代
じょうもんじだい

2) 各時代の資料・・・教科書や資料集の該当するカ所を示す。

